

本社工場隣に新工場を建設

最新型のマシニングセンター導入

再エネなど新規産業へ参入目指す

「ぶっちぎりの超短納期」
で金属加工部品の製造を請

負う㈱内海機械（府中市鵜
飼町743-1、内海和浩社
長、電0847・45・63
00）はこのほど、新工場
を建設。最新型のマシニン
グセンターⅡ写真上Ⅱを導入
した。総工費は約3億円。従
来の倍のサイズ（2m）ま
での金属加工も可能になり、
増加傾向にある再生可能エ
ネルギー関連部品などの大

型部品の受注にも対応して
いくという。

現工場に隣接する元社員
用駐車場（敷地1076・
56㎡）に、鉄骨造平屋建て
417・66㎡を建設。導入
した同社3台目の立形マシ
ニングセンター（MAZAK
製VTC-530/20）は、
省スペースでありながら、
2300×530mmのロン
グテーブルで長尺ワークの
加工や精緻な加工も可能。

同社はこれまで、5S（整
理・整頓・清掃・清潔・し
つけ）や3定（定位・定品・
定量）、16大ロス改善をPD
CAサイクル化するなど、
小さな改善努力でムダ・ム
ラ・ムリの徹底排除に努め
てきた。また、工場のIT
化を促進するとともに、多
品種・小ロットのオーダー
メイド品を超短納期で製造
する「多能工」を目指す意



7月25日に行われた落成式で
挨拶する内海社長

欲的な人材を揃え、少数精
鋭によって更なる高効率化
を図ってきた。その結果、3
年間で30%の生産稼働率改

善を果たしている。
年末には複合旋盤機も導
入する予定。内海社長は
「困った時の駆け込み寺と
して、『ぶっちぎりの超短納
期』で全国からの依頼を受
けています。さらに効率性
を高めようと、近畿大学工
学部との共同研究でAIの
活用も行ってきました。そ
うして積み上げてきた力を
活かし、成長産業の部品加
工にも手を広げて参りま
す」と話している。